

キリスト教には食のタブーは殆どありません。信仰する民族・国家が世界中に多種多様であり、キリスト教全体で統一的に禁止しているものはありません。基本的にキリスト教徒の個人の好みに合わせて自由に食事をしています。



仏教の「不殺生戒」と食のタブー

次に仏教ですが、「現在の日本の仏教」に限れば、食のタブーは殆どありません。なるほど明治維新までは肉、魚のような生臭を避け、精進料理でしたが、この精進の考え方は仏教が中国に伝来以後のもので、その中国仏教の影響で日本にも精進料理が定着しました。

もともと 2500 年前のお釈迦様の時代は托鉢で「供養（布施）」を受けて修行されていました。信者の精一杯の供養ですから、すべて残さず食されました。海辺の町では海の幸もあったでしょうし、山あいでは山の幸です。

ただし、仏教には不殺生戒がございます。「殺すなかれ」ということです。当然人を殺すことは絶対禁止命令です。しかし、お釈迦様は霞を食って生きられた筈がありません。お肉もお魚も果物もお野菜もすべて「生命」持てる自然の恵みです。「不殺生戒」をお釈迦様自身守れっありません。さて、「戒」はインドの言葉で「シーラ」といい、直訳すれば「善い習慣を身につけること」という意味です。ということで、「不殺生戒」は「生きとし生けるものを大切にする善い習慣を身につける」ということです。私達は「自分以外の人・モノ・環境に支えられて生かされている」という謙虚さと、感謝の気持で「生命持てる食材」を大切に頂戴することを教えられています。

したがって、現在の日本仏教で食のタブーはありませんが、僧侶には「食作法」が厳しくしつけられます。身近に言えば、お料理の段階で「食材を無駄なく大切に使い切る」、食前の「いただきます」「ごちそうさま」は当然のことながら、食べ散らすことなく、残さず綺麗に戴く」ということでしょうか。（「勿体ない」ことを避ける、これが基本）

幻の食材「スーカラマッダバ」

さて、お釈迦様は托鉢途上、インドのパールーというところで、チュンダという方の供養を受けられます。しかし、激しい下痢をされたそうです。実は幻の食材スーカラマッダバ（毒性のきのこ？）が原因であったようです。しかし、お釈迦様はチュンダの精一杯の供養だったことを十分承知してみえたので、チュンダをかばわれます。更に、お釈迦様はチュンダに非難

が及ぶことを想い、激しい下痢の中を隣の町クシナガラ迄歩かれるのです。そこで力尽きられます。

「誰だって・今・ここを変更できない」

（松平實胤意識©）

付き従う弟子（アーナンダ）が「お釈迦様ほどの方がこんな淋しい場末の街で亡くなるべきではない」と泣くのですが、お釈迦様は「私の臨終の地として、クシナガラは私の記念すべき場所となった。誰だって今ここを変更できない（松平實胤意識©）」とおっしゃっています。

「即今、当処、自己」

そして最期の、最期の、最期の言葉は「時は移りゆくものである。怠ることなく精進せよ」でありました。

私達の生き方はどこまでも、「今・ここ・私」です。「即今、当処、自己」「逃げることのできない、今この場所で、さあどうする？」

この一瞬一瞬が人生ということでしょうか。



2025～2026 年度のための地区研修・協議会報告②

（2025-26 年度幹事 近藤 俊也君）

◎第 3 分科会（報告；国際奉仕）

2025-26 年度 副幹事 宇佐美 芳樹君

テーマ：広めようロータリー・奉仕の力



国際奉仕委員会に代わりまして、代理として第 3 分科会に出席して参りましたので、ご報告させていただきます。

まず話として、前半に総論の話がありまして、後半が各論として具体例の話がありました。

まず、前半の総論部分の方からお話をさせていただきます。

地区の国際奉仕委員会として、4 つのことを重視してやってほしいという話がありました。

まず 1 つ目が、職業奉仕と国際奉仕活動の連携。

これはどういうことかと言いますと、ロータリーによっては、国際奉仕活動っていうのがほとんどできていないという状態もあるようで、まず取っかかりとして、ロータリーに所属してる会社の海外とのネットワークを利用して国際防止活動やってみてはいかかという話です。

ちょっと犬山とは関係がないのかもしれませんが、という話がありました。

で、次が国際奉仕活動のパッケージ化。これ何かと言いますと、1つ1つのものをパンと寄贈したりとかそういうのではなく、1つのパッケージとして寄贈するというやり方をやってほしい。

これは具体例として後半で話がありましたので、またそこで話をさせていただきます。

3番目が、国内における国際奉仕活動です。例えば、海外の奉仕活動で活動するだけではなく、各ロータリーの地区に国際交流協会とかそういった海外のコミュニティもあるので、そういったところと一緒に国内で何かをする、これも国際奉仕ではないのかということで、そういった活動を推奨されておられました。

最後は、グローバル補助金や補助金の活発な活用ということで、うまく利用してやってくださいということです。

後半では具体例の話がありました。今回、地区の国際奉仕委員会の副委員長が、矢場とんの鈴木社長、名古屋宮の杜 RC に所属しているんですけど、1つの名古屋宮の杜 RC としての具体例として、矢場とんがカンボジアでやっている保健室プロジェクトというものを名古屋宮の杜 RC が引き継いで一緒にやってるという話をされておられました。

どういうことかということ、これがパッケージ化ということに関わるんですけども、カンボジアというのは学校の保健室が無いような状態で、例えば日本では当たり前のように行われている身長とか体重とか、1年の時はどう、2年の時はどうこういう記録に残すと、そういう文化すらないような地域柄ということで、例えば日本からそういう文化を持ち込んで、さらにバンドエイドとか日本の薬局で売っているような簡単な薬、これを渡すだけでも保健室として十分な機能をカンボジアでは発揮する、こういったものを1つのパッケージとしていろんな学校に寄贈していくという活動を名古屋宮の杜 RC ではやっているということでした。

最後にですけど、合わせて名古屋宮の杜 RC の鈴木社長の方から、ぜひともこれを名古屋宮の杜 RC だけではなくいろんなロータリーと一緒にやっていきたいという話がありまして、時期が来たら各ロータリーに対してまた案内を出したいということをおっしゃってました。

実際に会場では、名古屋丸の内 RC とか、そういったところが、もう早々に一緒にやりたいという意思表示もされていましたので、もし犬山 RC でも興味があれば参加したらいいのかなと思います。以上です。

* * * * *

◎第4分科会（報告；社会奉仕）

2025・26年度国際奉仕・ロータリー財団副委員長 大原 隆一君

**テーマ：地域社会を支えるために、共に学び、
共に成長しよう
～地域の未来を共に創造するために～**

第4分科会は社会奉仕事業がテーマです。各クラブの社会奉仕、環境保全、RCC（ロータリー地域社会共

同隊）、奉仕プロジェクトの各委員長が受講対象で、同事業の3つの柱「社会奉仕部門」「環境保全部門」「RCC部門」について、具体的な事例を交えながら、わかりやすい説明がありました。特に環境保全や RCC は、普段耳慣れない事業であり、興味深く説明を受けました。



まず1つ目の柱「社会奉仕部門」は、各クラブの一般的な社会奉仕活動をサポートします。主な活動内容は、社会奉仕委員長会議の開催、年度現況調査報告書の取りまとめ、及び卓話要請への対応です。

社会奉仕委員長会議は、年2回の開催を予定しており、第1回会議（11月）では、新たな気づきを得られるよう、講演会、事例発表、及び懇親会を行います。第2回会議（2月）では、社会奉仕活動をテーマに、ファシリテーターの進行により、ディスカッションを行う予定です。

また2025・26年度終了後には、各クラブから具体的な活動内容について情報提供を受け、当地区内の活動を取りまとめた現況調査報告書を作成します。この報告書は、地区ホームページからダウンロードできるようにします。なお、2024・25年度版は7月頃にアップする予定です。

その他、各クラブからの要請を受け付け、社会奉仕委員会事業に関する理解促進を図り、事業に対する機運醸成に努めます。

次に2つ目の柱「環境保全部門」は、当地区各クラブが取り組んだ環境保全事業の内容を共有し、新たな企画・取り組みが生まれるようにバックアップします。

各クラブの取り組みを大きく分けると、「環境美化・清掃活動」「植樹・緑化・自然再生活動」「環境教育・講演活動」「里山自然保全活動」「表彰・顕彰活動」の5つに分類できます。

これらの事業を参考に、新たな企画・取り組みを検討する際には、①短期的でなく長期的な視点 ②一面的でなく多面的な視点 ③表面的でなく根本的な視点、の3つの視点を念頭に置くようにお願いします。

最後に3つ目の柱「RCC（ロータリー地域社会共同隊）部門」ですが、社会奉仕委員長会議のアンケートによると、残念ながら23%が、これまでRCCの事業内容を認知していませんでした。

RCC とは、ロータリーの奉仕理念と同じ熱意を持つ、ロータリアン以外の集まりです。柔軟に奉仕活動を行い、地域の課題を共に解決する、ロータリーの重要なパートナーです。

地域の人々をロータリーの奉仕活動の輪に巻き込み、共に行動することで、地域におけるロータリークラブの確固たる存在をアピールすることができます。ついては、各クラブにおいて RCC の提唱を検討してほしいと考えています。

以上、3 つの柱を中心に、社会奉仕事業の進め方について説明を受けました。当地区では、ほとんどのクラブで RCC、環境保全を専任する委員長は不在ですが、非常に意義深い事業であると感じましたので、これを機に強く意識して取り組みたいと思います。

* * * * *

◎第 5 分科会（報告；職業奉仕）

2025-26 年度職業奉仕委員長 鈴木 一成君

テーマ：われらロータリアン力を合わせて地域に奉仕
「職業奉仕」の心のもとに



地区研修協議会第 5 分科会に出席をして参りました。

第 5 分科会は我々ロータリアン力を合わせて地域に奉仕「職業奉仕」の心のもとにと言うテーマでお話を頂きました。冒頭で次期地区ロータリー奉仕副委員長の加藤厚さんから挨拶があり、次に次期地区職業奉仕委員長の加藤徹さんから職業奉仕委員会の方針説明があり、昨年に引き続き四つのテストに照らし合わせた会社案内を推奨していこうということでした。

続いて職業奉仕委員会のメンバーの紹介があり、次期職業奉仕副委員長から四つのテストと職業奉仕をテーマに、職業奉仕とは四つのテストとはロータリアンとして宣言、ロータリアンとして実践についてお話がありました。

具体的な内容としましては、人の役に立つ仕事を通して利益を上げて、その利益の一部をロータリアンとして各種奉仕活動の財源としているのがロータリーの活動である。国際ロータリーのサービスという言葉は日本では奉仕と訳しておりますが、奉仕とは自己犠牲ではなく人の役に立つ働きを言うとのことでした。自己犠牲を伴って奉仕をしても永久に続かないので、自分も利益を上げながら世のため人のためやっていきましょう、という事が職業奉仕の根本的な考え方であると

いうことです。

とはいえ、お金儲けと奉仕が、結びつけにくいので二人の偉人の言葉で説明されました。

一人は二宮金次郎の言葉「経済なき道徳は戯れ言であり、道徳なき経済は犯罪である」を引用して経済力が無い状態で人のために何か行動しようとしても限界があると、儲ければ人様の幸せなど関係ないという考え方でビジネスをすることはロータリアンとしてはどうでしょうかということをお願いしておりました。

二人目は日本の経済の基盤を作った渋沢栄一の「動機を伴った利益を追求せよ」みんなに喜ばれることをやって利益を出していこう、自分より他人を優先し公益を第一にせよ、ということで、お金儲けすることと世の中に尽くすことを両立しなさいということをお願いしておりました。

つまりお客様に満足していただけるように清く正しく仕事をして、さらに安定した利益が得られようビジネス方法を工夫するということが大事である。と二人の言葉を引用してわかりやすく説明されましたが、実際に実践となると難しいので、ここでロータリアンに提唱されている四つのテストを自分の会社に当てはめて考えてみるとヒントになるのではないかとということでありました。

この説明に続いて、四つのテストに照らし合わせた会社案内、会社経営の事例として 2 組の会社の説明がありました。この発表を参考にそれぞれのクラブの職業奉仕担当例会において卓話形式で進めていただければということでしたが、それぞれのクラブのやり方があると思いますのでどんな形式であろうとも、四つのテストを常に照らし合わせて行うことを念頭に置いてやっていただけると幸いとのことでした。

最後にまとめとして次期地区副幹事の本田さんより講評があり閉会となりました。

以上、職業奉仕委員会の報告とさせていただきます。

* * * * *

◎第 7 分科会（報告；青少年奉仕関係）

2025-26 年度

青少年・社会奉仕・米山記念奨学委員長

保浦 博志君

テーマ：貢献しよう 青少年とともに・・・



開会の挨拶 次期地区副幹事 堀井慎二より始まり、インターアクトは、12-18 歳で構成されており 2760 地区には、19 のインターアクトクラブがあり 31 ロー

タリークラブが提唱されている。

歴史をたどると第1号がメルボルン高校インターナショナルクラブ日本では、仙台育英高校が、1963年に誕生しており翌年には、2760地区で豊川高校があり、グループホーム訪問、障害児への慰問。街の清掃活動 震災復興支援活動など社会貢献活動をされています。

この奉仕活動を通じて、以下の4つを学ぶことになっております。

まず1つ目に指導力を高め誠実な人格を育成してリーダーシップを高める。

2つ目 他者を助け、#他者を尊重することの大切さ思いやりの心を学ぶ。

3つ目 各自の責任を果たし、懸命に努力することの尊さ責任感、人間力を向上させます。

4つ目 国際理解と親善の推進を図り、個人として、また団体として、進むべき道を開きます。

RYLA セミナーは、本年度97名の参加。従来豊田で開催していたが、今年度は3月20-21日蒲郡にて開催。案内文は10月に発送されます。

青少年交換事業、16-19の学生が海外に滞在し国境を越えた友情を築き世界の人々と市民としての自覚を養う1年の海外派遣を含めて3年のプログラム。

問題点は、さまざまある。スポンサークラブの不足、ホストファミリー不足、インバウンドのイメージ、金銭面などが考えられる。

そして学友、プログラムに参加した皆さんが時間の経過によりロータリーから離れてしまい、参加した時のボランティア活動・社会貢献・国際貢献の重要性和達成感を失くしていると思われ、プログラムに参加した経験者が委員会の垣根を超え、クラブ・地区の奉仕プロジェクトや交流行事に幅広い世代の方に参加を呼び掛ける活動を行い、ロータリーとの「つながり」を保ち続けていきたい。

ローターアクトは18歳以上の人たちが集まって、地域社会のリーダーと意見交換をしたり、リーダーシップと専門的なスキルを育んだりしながら、楽しく奉仕活動を行う。

インターアクト、学友、ローターアクトを通じて次世代に繋げられるロータリアンの育成活動だと思われる。

自分の知らない世界や未体験の関わりが地区そしてロータリークラブには多くあることを感じた。

* * * * *

◎第8分科会（報告；米山記念奨学）

2025-26年度

青少年・社会奉仕・米山記念奨学副委員長
安達 寛益君

テーマ：未来に向かって、世界平和の架け橋になろう

地区研修・協議会 第8分科会（米山奨学委員会）の報告をさせていただきます。

まず内田次期地区スタッフの開会挨拶で始まり、続いてリーダー挨拶がありました。25-26年度も24-25年度と同様に神谷恵理さんが次期米山記念奨学委員長

となり米山委員会を進めていくという挨拶がなされ、その後、DVD鑑賞、各副委員会長の説明、グループ討議という流れで会は進められました。



リーダー挨拶では、25-26年度第2760地区の奨学生数は50名であると説明がありました。続くDVD鑑賞においては、地区委員会のPR動画として編集された動画が流され、米山奨学生の事業が母国との懸け橋になる人材の育成を通して世界平和へつなげる事業であることを知ることができました。また動画の中で、RCメンバーの方には、多文化の理解につなげるよう奨学生と是非遊んでください。という投げかけもございまして、私自身もカウンセラーとして、しっかりと奨学生と接していかなければいけないと感じました。DVD鑑賞の後、地区委員会の活動として、24-25年度ベースでの年間流れについて説明がありました。

続いて、寄付増進の説明においては、24-25年度財源は14億4568万円と一昨年と比べ飛躍的に増加しましたと報告がありました。米山の寄付金には普通寄付と特別寄付とある中で、昨年は特別寄付において、大口寄付があった模様です。それは、名古屋名東RC会員でホシザキ電機株式会社取締役会長の坂本様によるもので、それにより2760地区は寄付金額が日本で1番となったと報告がありました。しかし、個人平均寄付率では8位ととどまっているとの事で、特別寄付額を増やし、25-26年度の個人寄付額平均は20,000円を目指すと発表がありました。

続いて奨学生選考については、日程・手順・選考基準について説明があり、25-26年度奨学生は56名を目指すとのものでした。その後、世話クラブ・カウンセラーの役割について、説明がありました。

一通りの副委員長の説明の後、グループ討議が行われました。米山委員の方を含め10名程度のグループに分かれ話し合いの時間が持たれました。各自の自己紹介の後、米山奨学生とのかかわり方、奨学金の贈呈方法、寄付金徴収等について討議が行われました。奨学金が後日振り込みでクラブの例会内で贈呈されないクラブ。卓話以外で米山奨学生との関りが無いクラブなど見られ、クラブ間でかなり色が違う印象を受けました。また、寄付金は年会費から充当するするケースが多く特別寄付金の徴収ではやはり徴収が難しいと話がありました。

その後、青山ガバナー補佐よりまとめがありまして、第8分科会は終了となりました。

25-26年も10月の米山月間がございまして。またお声

以上、第8分科会 米山奨学委員会の報告となります。
ありがとうございました。

(25-26 年度 近藤幹事)

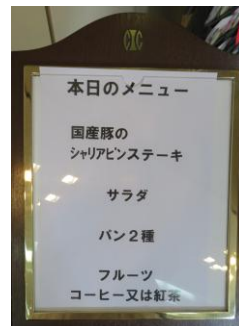


皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

閉会点鐘挨拶 (松平 實胤会長)



＝本日のお食事＝

[illegible]

○RID2760衛星クラブ説明会

○春季米山奨学生学友合同研修会

5月24日(土)蒲郡商工会議所集合にて、春季米山奨学生学友合同研修会(場所:蒲郡商工会議所/竹島水族館)が行われ、米山奨学生アディカリ ボハラ プジャさんと、安達カウンセラーが参加されました。

